

平成 29 年度 事業報告書

(自 平成 29 年 6 月 1 日 ~ 至 平成 30 年 5 月 31 日)

公益社団法人

日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟は、日本国内のボブスレー・リュージュ・スケルトンの各競技を統括し、代表する団体として、定款に掲げる目的を達成するため、以下の事業を実施した。

1. 競技普及振興活動

(1) そり競技体験会事業

今年度は道府県連盟主催行事に日連人材開発部主催のリュージュ体験教室も新たに
加えて活動を推進した。

行事名称	主催	開催地	会場	開催時期	延体験回数
プッシュボブ・スケルトン競技体験会	宮城県連	宮城	仙台大学	2017/4/22	125
ローラースケルトン体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	大倉山	2017/8/11	354
ローラースケルトン体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	大倉山	2017/9/23	600
プッシュボブ・スケルトン競技体験会	宮城県連	宮城	柴田	2017/9/30	130
ローラースケルトン体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	札幌ドーム	2017/12/16	660
ボブスレー体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	十勝エコパーク	2018/1/21	165
ボブスレー・スケルトン体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	帯広氷祭り会場	2018/2/3-4	718
リュージュ体験会	日連	北海道	藤野リュージュ競技場	2018/2/3,10,17	250
ボブスレー・スケルトン競技体験会	大阪連盟	長野	スパイラル	2018/1/8	62
ボブスレー競技体験会	長野県連	長野	スパイラル	2018/1/14	120
スケルトン競技体験会	長野県連	長野	スパイラル	2018/1/27	60
スケルトン競技体験会	北海道 BS 連盟	北海道	藤野リュージュ競技場	2018/1/28	75
ボブスレー体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	大倉山	2018/2/11	200
スケルトン競技体験会	北海道 BS 連盟	北海道	藤野リュージュ競技場	2018/2/12	100
ボブスレー・スケルトン体験教室	北海道 BS 連盟	北海道	札幌大通フェス	2018/2/25	1,100

(2) 選手発掘測定会(トライアウト)事業

以下の選手発掘測定会と育成合宿を実施した。

行事名称	開催地	会場	開催時期	参加選手数
第1回 選手発掘測定会(日連単独事業)	東京	江東区夢の島競技場	2017/7/8	7
第2回 選手発掘測定会(愛媛コラボ事業)	愛媛	しおさい公園体育館	2017/7/8	192(*1)
第3回 選手発掘測定会(日連単独事業)	東京・神奈川	日本体育大学	2017/7/27、28	29
第4回 選手発掘測定会(日連単独事業)	宮城	ひとめぼれスタジアム	2017/10/1	9
第1回 育成合宿	長野	長野スパイラル他	2017/7/15-17	18
第2回 育成合宿	長野	長野スパイラル	2017/8/1-5	21
第3回 育成合宿	東京	長野スパイラル他	2017/8/23-27	27
第4回 育成合宿	東京	味の素トレセン他	2017/9/16-18	14
第5回 育成合宿	東京	味の素トレセン他	2017/10/7-9	12
第6回 育成合宿	長野	長野スパイラル他	2017/12/4-24	22
第7回 育成合宿	長野	長野スパイラル	2018/1/7-2/5	24
ボブスレー男子パイロット育成合宿	長野	長野スパイラル	2018/1/24-28	4
第8回 育成合宿	米国	Park City	2018/2/26-3/12	3

*1: 日連がコラボしたえひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業参加者総数

-1. 選手発掘

発掘測定会 計4か所 (東京都、愛媛県、宮城県、日本体育大学)

参加人数 237名

新たに競技を始めた選手 12名

国際レースに参戦した選手 2名

(競技視察・夏季合宿参加など 10名)←次年度競技開始を目指す

【1.平昌オリンピックに向けたボブスレー女子ブレーカー発掘】

昨年度に引き続き、選手発掘を行った。新たに3名の選手が国内選考にチャレンジし 2名が日本代表選手として国際大会へ派遣された。昨年度発掘選手と合わせて、3名の発掘選手がワールドカップ等のレースに参戦した。

国内選考において従来選手以上の評価を得る選手を発掘することができた。昨シーズン、今シーズンの国際レース結果からも目標としていたレベルに近い選手を発掘することができたと考えられる。

＝発掘選手の主な成績＝

森本選手 ヨーロッパカップ 7位 ワールドカップ 17位

小川選手 ヨーロッパカップ 13位 ワールドカップ 21位

【2.北京オリンピック以降に向けた選手発掘】

昨年度に引き続き、日体大でのトライアウトや日本スポーツ振興センター(JSC)NTID 合同トライアルから多くの選手発掘につながった。また、宮城県連盟、北海道連盟、愛媛県タレント発掘事業との連携による発掘も実施することができた。

これらの活動を通じて発掘された選手を夏季や12月、1月の育成合宿で専門トレーニングを行う流れを作ったことで、指導を受ける機会を作ることができたことが有効であった。

発掘選手の中で国内レースに参加した選手も多く、中でも全日本選手権でプッシュタイム4位、5位の記録を出した選手もあり、スプリント能力の高い選手の発掘が結果につながっていると考えられる。

ボブスレー男子選手においても2名の発掘選手がパイロット育成合宿に参加しトレーニングを行った。

＝発掘選手の主な成績:全日本スケルトン選手権出場者＝

池田選手 プッシュタイム4位 最終順位21位

神選手 プッシュタイム5位 最終順位10位

-2. 若手選手の育成

育成合宿 計8回

参加人数(のべ人数)141名

道府県連盟と連携して育成合宿を開催し、3競技の多くの若手選手が参加した。合宿を通じて、ソリ競技の基礎知識、基礎練習、ルール、用具の扱い方、スポーツ栄養学、スポーツ心理学、トレーニング指導、目標設定、チームビルディング、オリンピック講話など様々な内容の講習を行った。

道府県連盟指導者や外部講師からの指導を受けることで、競技に関する基礎的な知識、技術だけでなく、アスリートとして必要な知識や考え方を学ぶ機会となった。さらに、選手間や指導者とのコミュニケーションを図ることで、仲間意識や競争が生まれ、競技へのモチベーション向上につながった。

発掘選手のトレーニングを若手選手と合同で行ったことで、従来選手との関りの中で早く競技への理解を深めることにつながった。

-3. その他

- ・ 平成29年度スポーツ振興くじ基金助成金「将来性を有する競技者の発掘育成活動助成」が交付され、活動の財源とすることができた。平成30年度に向けても申請を行った。
- ・ 各種助成金の情報を収集し、選手に適宜発信した。ヤマハ発動機スポーツ振興財団のスポーツチャレンジ助成に2名の選手が申請し、1名が助成対象として交付が決定した。

(2) 国際大会・全国大会事業

29年度の国際大会・国内大会の開催状況は、下記①及び②のとおりである。これらの大会を通じ、広く競技をアピールし、競技を始めて間もない初心者から世界レベルのアスリートが競う多くの大会を主催している。

-1. 国際大会

会場の長野市ボブスレー・リュージュパーク(通称スパイラル)は、これまでアジアで唯一の国際連盟公認コースであり、国際大会ではその運営も日本連盟が行っていた。しかし、スパイラルの来年度以降の冬期間使用中止の決定と国際連盟のコース公認更新の時期がリンクし、新たにコース公認を取得する対応を行わなかったことにより、スパイラルの国際連盟のコース公認は失効し、29年度に国際大会を開催する資格を失った。国際大会が全く開催されなかったことは、やむを得ない状況とはいえ、残念な結果であった。

-2. 国内大会(会場:長野スパイラル)

29年度に開催した国内大会は、以下のとおりである。

大会期間	種別	大会名	参加選手数
29.8.5	S	2017 全日本プッシュスケルトン選手権大会	28名(男子14、女子14)
28.8.5	B	2017 全日本プッシュボブスレー選手権大会	9名(男子9)
29.12.22~24	S	2017/2018 全日本スケルトン選手権大会	37名(男子25、女子12)
29.12.22~24	L	第51回 全日本リュージュ選手権大会	4名(男子2、女子2)
30.1.5~7	B	2017/2018 全日本ボブスレー選手権大会	16組(二人乗り男子8、同女子2、四人乗り6)
30.1.20~21	B・L・S	第9回 JBLSFチャレンジカップ大会	26名・組(B6、L5、S15)
30.1.20~21	B・L・S	第25回 JOCジュニアオリンピックカップ競技会	21名(L8、S13)

※B…ボブスレー、L…リュージュ、S…スケルトン

大会を開催することは、実践の場を通じた各選手の競技力強化への貢献のほか、そり競技の振興普及を図っており、すべての大会においてルールや運営方法を定めた要綱を作成し、公表している。財源はおもに日本スポーツ振興センター(JSC)助成金や日本オリンピック委員会(JOC)補助金、そして大会登録料、スポンサー料で賄っている。

29年度は、平昌オリンピック大会直前に日本代表選手が集中的な滑走練習をできるようにスパイラルの冬期滑走期間を従来より1週間程度後方にシフトしたこと及び年末のカレンダーの都合により、国内大会を開催できる日が限定的になったことなどから、これまで実施していた全日本スケルトン選手権大会の予選会を割愛したほか、全日本ボブスレー選手権大会を1月に開催する日程とした。

大会運営は、参加した競技役員 노력、参加選手等の協力もあり、ほぼ日程案どおりの円滑な大会運営であった。改めて、道府県連盟を含む関係各位に感謝申し上げたい。

(3) 審判資格者の育成

大会運営に必要な不可欠な競技役員をより多く確保しスキル向上を図るために、加盟団体の協力のもとで研修会・講習会を開催し、競技会の運営をつかさどり、スタート、ゴール、計時等のスタッフとしての任務にあたる日本連盟公認の審判資格取得の試験を行っている。また取得者には審判員カードを発行し運営参加を義務づけ、連盟主催の大会に年数回の参加要請をしている。

29年度は、下表のとおり、各加盟団体における審判資格講習会あるいはルール講習会が開催され、審判員資格取得試験を実施したところ、新たに2名が審判員資格を取得した。競技役員の有資格者を増やすことは、多くの大会参加者が規則や運営側の考え方を理解し、より円滑な大会運営に結びついてきているといえる。

年月日	連盟	種別	会場	研修会名
29.11.11	大阪	B、S	サンライフ明石(兵庫県明石市)	審判・ルール講習会
29.11.19	長野県	B、S、L	県連事務局(長野県長野市) スパイラル(長野県長野市)	審判員資格取得講習会 審判クリニック研修会

※B…ボブスレー、S…スケルトン、L…リュージュ

また、審判資格と直接的につながるものではないが、国内大会出場選手(特に競技経験の少ない若手の選手)に対して基本的なルール及びマナーを事前に周知することも、円滑な大会運営や選手強化に結びつくものとして、国内大会出場を目指す選手のためのベーシックガイドを毎年度更新しながら活用している。

なお、「次世代の国際審判員資格者」の確保は、国際大会審判の経験により、世界的な現状を理解することに大変有益なことから、切望するものである。

(5) 長野スパイラル利用拡大推進事業(長野市への提言)

平成29年4月に長野市がスパイラルの製氷を平成30年度より休止する決定をしたことで冬季滑走は今シーズンが一つの区切りとなった。FILの視察を受けるも設備更新等はなされず国際連盟公認コースではなくなった。

NTC(ナショナルトレーニングセンター)の競技別強化施設認定4年間の継続を受け、夏季シーズンのトレーニング拠点は今後もスパイラルを利用できることとなった。プッシュスタートトレーニング、ローラーリュージュ等は今より積極的に施設活用を続け、冬季製氷の再稼働に向けて尽力していく。

冬季シーズン終了時に自動車メーカーのCM撮影としてスパイラルが利用され、自転車でコースを滑走するシーン等がTVで放映された。この撮影時にイベントが開催され賑わいを見せたことは今後の利用拡大の一つのヒントとなった。

(6) 広報・ファンドレイジング活動事業

今年度は目標 14 百万円の新規スポンサー収入を目指してヤマハ等の国内企業、ボブスレーハンスヘッドコーチの活動でヨーロッパ企業に協賛、寄附依頼をすすめたが、結果として共に獲得に至らなかった。オリンピックシーズンではあったが国内でのそり競技に対する注目度は低くなかなか前向きな話に展開できなかった。有望企業のリストアップ、プレゼン資料の作成、熱意をもった訪問活動等、獲得のためにはより戦略的に策を練ってアプローチをする必要性を痛感した。

競技への認知理解を深めてもらうための広報普及活動を並行して進めることも必要なことであり、PR のための良質な動画や写真コンテンツを作成し充実させて今後のスポンサー獲得やリクルート発掘に活かしていきたい。

2. 競技者強化と指導者養成活動

(1) ナショナルチーム選抜・強化事業

-1. ボブスレー

2017/2018 シーズンにおける日本ボブスレーチームの最大の目標は、平昌オリンピック男子出場権獲得、女子は 8 位入賞。結果的に男女とも目標を達成することが出来なかったことは、現場スタッフのみならず、強化部及び連盟全体で厳粛に受け止めなければならない。今回の結果を踏まえ、不達に終わった根本的な原因の究明と課題の検証が必要となってくる。競技成績に関係する 5 つの要因について検証を進める。

【1. 検証】

①マテリアル

ハンス HC の強い要望により世界トップのマテリアルのひとつでもある Wallner 社製のソリをシーズン前に調達が出来た。これまで日本チームが保有している BTC 社製、ジンガー社製のソリと併せて、マテリアルの部分では世界との乖離は大きく減少されたといつて良い。

②人材確保

パイロットの人選については、前年の海外競技会の実績から男子は浅野選手、女子は押切選手、浅津選手の選出を 2017 年 6 月時点で発表している。

ブレーカーについては、昨年計 5 回の発掘テストを行い、人材の発掘・確保に努めた。ナショナルチーム入りした女子新人選手は森本選手、小川選手、田中選手の 3 名で、昨シーズン世界選手権のスプリントタイムで 7 位の実績のある君嶋選手、ベテランの川崎選手を併せトータル 5 名体勢であった。

男子の新人選手は篠原選手 1 名であるが、既存の伊藤選手、中村選手、佐々木選手 がブレイカーとして選考された。後に伊藤選手がハンス HC の指示を受け、パイロットとして大会に出場する。

5 月から 10 月までの国内合宿の全てで選手の 2 次選考としてプッシュタイムによるトライアルを行った。これは 10 月の合宿までに新たな有力新人が現れた場合の救済措置で、新人選手をギリギリのタイミングまで確保できる様、可能性を残した。

③コンディショニング

ハンス HC の指示の下、今シーズンから合宿毎にドイツ式のコントロールテストを行うこととなった。第 1 回の国内合宿でこのドイツ式のコントロールテストを実施した際、既に代表候補であったパイロットの浅津選手がアキレス腱の部分断裂、浅野選手が腰椎捻挫を引き起こしてしまい、復帰まで半年以上かかる大きな離脱となった。また、君嶋選手も足関節の痛みを訴えており、オリンピックトライアルとして非常に厳しい選手コンディションで臨まざるを得なかった。

人材確保の目的で 10 月の海外遠征直前合宿まで選考トライアルを実施した事も選手のコンディション作りに大きなマイナス要因を残す結果となった。

④情報・戦術・戦略

オリンピックポイント獲得の為に日本女子チームが選択した大会は、ワールドカップ(以下 WC)である。WC 選択の利点は、ポイントが EC 及び NAC と比較して 2 倍高いことである。逆にリスクとしては強豪国の多数参加と滑走未経験のコースが 3 箇所存在することである。ハンス HC の得た情報ではライバルチームの多くが WC 参戦を表明しているが、押切・浅津選手の力量を勘案して、十分 WC で勝負できるという決断であった。その為の準備として絶対必要な条件は、未滑走のコースでは大会前に十分な滑走トレーニングを行い、コースに対する不安を除去し、自信と対応能力を獲得するという思惑であった。しかし、予想外の悪天候によりコースクローズが長引き、選手が十分な能力を有するに至らぬまま WC に参戦せざるを得ない状況に追い込まれた。

男子 2 チームは WC 出場に必要なポイントを持っていないので、必然的に EC か NAC の参戦となる。滑走経験の無いコース中心の NAC を回避して、EC 参戦を決断したことには当然の選択と言える。

⑤コミュニケーション

今シーズン女子チームで起こった選手間の諍い問題は、コミュニケーションの取り方に端を発した事案であると推察できる。選手同士の相手への配慮を欠いた言動行動が、徐々にチーム内に亀裂を生じさせた。パイロットとブレイカー、それぞれには違った思いがあるのは確かだが、自分本位の考えや言動が招く信頼関係の欠如には大きな落とし穴がある。故にチームとして成熟していない状況では、理想とする結果が伴わないのは火を見るよりも明らかである。今後は JOC のキャリアアカデミー、スポーツインテグリティ、行動規範など、様々な講習会

での選手スタッフ教育を積極的に行い、チームとしての成熟を一番に考えていきたい。

また、女子選手からの聞き取りによると、ハンス HC による強権がかなり選手にストレスを生じさせた事も大きな要因である。情報の不伝達、選手からの提案に傾聴しない、自由時間の欠如、公平性を欠く選手起用など枚挙に暇がない。また、通訳について、選手の発言が正しく通訳がなされていないという疑念が多く出ている。これについては通訳者であるロルフの個人的な感情が入ることで、通訳する内容を取捨選択して伝えているのが原因であると推察できる。今後の課題として、外国人 HC やコーチ、通訳の人間性をも考慮したコミュニケーションスキルの向上が必要となる。

【2. 強化合宿】

2017 年 5 月 10 日から 14 日 第 1 回国内強化合宿(長野市スパイラル)

2017 年 6 月 17 日から 30 日 第 1 回海外強化合宿(ドイツ:ケニグゼー)

2017 年 7 月 19 日から 23 日 第 2 回国内強化合宿(長野市スパイラル)

2017 年 8 月 18 日から 31 日 第 2 回海外強化合宿(ドイツ:ケニグゼー)

2017 年 9 月 20 日から 24 日 第 3 回国内強化合宿(長野市スパイラル)

2017 年 10 月 11 日から 15 日 第 4 回国内強化合宿(長野市スパイラル)

※オリンピックシーズンということもあり、選手選考及び発掘に重きを置き、合宿毎にドイツ式のコントロールテスト及びプッシュのタイムトライアルを実施した。

-2. リュージュ

2015 年度より、選手強化方針をジュニア育成中心にシフトし強化を続けてきた。昨年度は 2 名の強化指定選手を中心に国内外で強化を続け、今年度より海外での国際試合にも参加し、ある程度の結果も残すことができた。

【1.実施事業】

夏期合宿 9 月 1 日～3 日 場所 長野市スパイラル

前期国内合宿 12 月 12 日～24 日 場所 長野市スパイラル

後期国内合宿 1 月 9 日～19 日 場所 長野市スパイラル

前期海外遠征 11 月 25 日～12 月 11 日 場所 ウィンターベルグ・ケニクゼー

後期海外遠征 1 月 13 日～2 月 6 日 場所 ウィンターベルグ・アルテンベルグ

その他

夏期練習会 5 月～10 月頃まで月数回 場所 札幌 長野

リュージュ体験会 1 月 2 月 計 8 回 延べ人数 160 名 場所 Fu's スノーエリア

校外学習 1 月 23 日 26 日 延べ 50 名 場所 Fu's スノーエリア

①夏期合宿

長野市スパイラルでローラーリージュを中心とした強化合宿を実施。11名の選手が参加した。ルール講習なども取り入れ体力と知識の強化を計った。

今回の合宿を通して、選手のリージュに対する意識は確認できたが、生活面での意識不足が露見した。食生活や体の姿勢など、今後は専門講師を招くなどで対応し改善したい。

②前期国内合宿

12月には2週間の強化合宿を行い、8名が参加。それぞれが目標としたスタート位置から滑走し、1月のJOCジュニア選手権に向けて、課題に取り組み滑走練習を行った。昨年からの経験とビデオでの講習の時間を多く設けた為か、昨年以上に安定した滑りをする様になった。

＝今後の課題＝

何度も合宿を行っているが、数名の選手がこちらから指示をしないかぎり、何も行動できない「指示待ち人間」となっている。選手としての自覚がもっと大きくなれば、自主性も出てくると思うが、競技人口が少なく、他の競技に比べて危機感が少ないのも、自主性の芽生えない要因のようにも感じた。今後は、長野スパイラル休止に伴い、海外での活動が中心となる。少ない選手でもセレクションをすることで、危機感を感じてもらいたい。

③後期国内合宿

1月はJOCジュニアカップに向けて2週間の強化合宿を行い、7名が参加。それぞれが昨年や12月の自己ベストを更新した。また男子では小学校6年生の選手が優勝し、今後の体力や精神面での成長次第で、国際大会の派遣も検討していきたい。

今後は、スパイラル休止に伴い、滑走練習の環境確保がもっとも大きな課題であるといえる。選抜した選手以外の滑走機会をどのように作っていくかは、選抜選手の強化と並行して事業展開をしていく必要がある。また、これまで国内で行っていたレースの結果を選手選考に用いていたが、選考レースを海外で行うことができるのかも検討していかなければならない。

今後の課題として、筋力体重体格共に今大会参加選手の中では最低のレベルだった。滑走内容は良くても、体重差で大きな差が生まれる。このことは、それぞれが自覚している。今後、フィジカル面でどれだけ成長できるかが課題となってくる。

ジュニア選手でシングル男子女子各2名、ダブルス1チームを編成出来るように強化を図る。2026年冬季五輪までに出場を果たし、2030年冬季五輪では10位以内の成績を目指す。重点強化ポイントは以下の通り。

- ・滑走経験の蓄積と、滑走技術の強化
- ・体力と筋力の強化
- ・自分で考える力をつける
- ・代表選手としての自覚と、チームとしての結束力を植え付ける
- ・個々の適正を見極め、シングル、ダブルスの編成

ナショナルチームの選抜にあたっては、以下のポイントでジュニア選手を総合評価し、選手選考を行う。

- ・2017 年度(昨年度)の国際大会成績と公式練習等の内容
- ・2017 年度の国内大会のタイム成績
- ・2018 年度(今年度)のコントロールテスト結果

-3. スケルトン

【1. JOC 強化指定選手事業】

目的: 平昌五輪の目標(男子 6 位以内、女子 8 位以内)を達成する為の強化

強化内容:

①チーム力構築

一部の選手に、目標達成の為にチーム力(チームワーク)向上が必要であることの意義が理解されず、全員の意思統一が出来なかった。

②スタートタイム強化

スプリント局面の正しい動作、フォームの理解、個々の現状把握、個々の改題抽出と言った流れで作業を進め、夏季強化合宿では関節可動域角度測定、スクワットフォームチェック、スプリント映像分析を実施した。これらのデータを各選手のパーソナルトレーナーとも情報共有するようにし日常のトレーニングにおいても向上に努めた。その結果、夏季プッシュトラックにおけるスプリントタイムは全選手が向上した。

③滑走技術強化

オフシーズンの終盤、そしてシーズン(試合期前)で、強化向上に取り組む予定であったが諸事情により強化を進めることができなかった。

用具については、各自の滑走技術、好みにあった外国製の購入、一部の選手においては日本製のそり製作を行った。その結果、目標を達成するのに十分な用具を整えることは出来た。

これら3つのポイントを基に強化を行った。しかし、強化部長・ヘッドコーチの辞任などの諸問題により、体制は崩れそのままシーズンを迎えてしまった。結果的に五輪へ出場はさせて頂いたが目標としていた結果には及ばなかった。

今後は、体制の再構築が強化事業に直結してくると考え、実施していく。

【2. ジュニア選手事業】

目的: 次世代選手に関して平昌以降のオリンピックに向けて強化する

強化内容:

中学生から大学生と幅広い年齢を対象とするジュニア選手に対して、トレーニング、栄養、心理などの講習機会を設け、基礎的な知識を備え、更に高いレベルへ上がり自発的な行動を取れることを目標とした。お互いに尊重し良きライバルとして切磋琢磨し、競技力、人間力を高めることを目的としたチームビルディング講習も実施した。

ジュニア選手層は増えており、将来有望な選手も多くいる。今後は将来有望なジュニア選手に対しての活動を広げていく必要がある。

【3. 国内事業実績】

①選手選考テスト

- ・前期コンバインドテスト 平成 29 年 9 月 9 日
- ・プッシュ記録会 平成 29 年 9 月 10 日

②国内合宿

《JOC 強化指定選手対象》

- ・強化合宿1 平成 29 年 5 月 23 日～5 月 26 日(3 泊 4 日)
- ・強化合宿2 平成 29 年 6 月 22 日～6 月 25 日(3 泊 4 日)
- ・強化合宿3 平成 29 年 7 月 20 日～7 月 23 日(3 泊 4 日)
- ・強化合宿4 平成 29 年 8 月 17 日～8 月 20 日(3 泊 4 日)

《ジュニア選手対象》

- ・強化合宿 育成1 平成 29 年 8 月 18 日～8 月 20 日(2 泊 3 日)
- ・強化合宿 育成2 平成 29 年 9 月 22 日～9 月 24 日(2 泊 3 日)

(2)海外遠征・国際レース参戦事業

-1. ボブスレー

【1.女子】

2017/11/11	WC 第 1 戦(レークプラシッド:アメリカ)	18 位	浅津・川崎	19 位	押切・君嶋
2017/11/17	WC 第 2 戦(パークシティー:アメリカ)	19 位	押切・森本	20 位	浅津・川崎
2017/11/24	WC 第 3 戦(ウイスラー:カナダ)	16 位	押切・君嶋	21 位	浅津・小川
2017/12/1	EC 第 4 戦(ケニグゼー:ドイツ)	7 位	押切・森本	13 位	浅津・小川
2017/12/9	WC 第 4 戦(ウインターベルグ:ドイツ)	22 位	押切・森本	23 位	浅津・川崎
2017/12/16	WC 第 5 戦(インスブルック:オーストリア)	20 位	押切・森本	21 位	浅津・小川
2018/1/6	WC6 戦(アルテンベルグ:ドイツ)	16 位	浅津・君嶋	17 位	押切・森本
2018/1/13	WC 第 7 戦(サンモリッツ:スイス)	21 位	押切・森本	23 位	浅津・君嶋
2018/1/20	WC 第 8 戦(ケニグゼー:ドイツ)	19 位	押切・森本	22 位	浅津・川崎
IBSF ランキング		21 位	押切	592 ポイント	
		22 位	浅津	524 ポイント	

【2.男子】

2017/11/23 EC 第3戦(アルテンベルグ:ドイツ)	18位	浅野・佐々木	DNS	伊藤・中村
2017/11/24 EC 第4戦(アルテンベルグ:ドイツ)	19位	浅野・佐々木	20位	伊藤・篠原
2017/12/1 EC 第5戦(ケニグゼー:ドイツ)	27位	伊藤・篠原	29位	浅野・中村
2017/12/15 EC 第6戦(ラプラーニュ:フランス)	20位	浅野・佐々木	25位	伊藤・篠原
2018/1/5 EC 第7戦(インスブルック:オーストリア)	19位	伊藤・佐々木	21位	浅野・中村
2018/1/12 EC 第8戦(ウインターベルグ:ドイツ)	18位	浅野・中村	21位	伊藤・篠原
IBSF ランキング	21位	浅野	194ポイント	
	22位	伊藤	138ポイント	

-2. リュージュ

【1.前期海外遠征】

11月はウインターベルグとケニグゼーで練習合宿を行い、滑走技術の向上がみられた。11月遠征の目的として、初めてのコースでの対応力、失敗した時のリカバリー力を養うこと、長野以外のコースで滑走し、経験値を得ることとした。長野ではあまり失敗しない選手だったが、初めてのクライスルやラビリンスで苦戦をしたものの、目的を達成することが出来た。

【2.後期海外遠征】

1月には、ウインターベルグとアルテンベルグで初めての海外試合に参戦。ルール規定上(タイムの規定)、試合に参加できる事を目標としていたが、予想以上の成績を収める事ができた。ウインターベルグの Jr WC では、11月に練習したコースでもあり、気持ちにゆとりを持って練習、本番に臨めた様子だった。試合内容では、男子の小林が2本目まとめて順当な順位。女子の新野は1本目のツイルカーブ手前で失敗し、大きくタイムを落としたが、2本目は自己ベストで滑走を終えた。

アルテンベルグの世界ジュニア選手権では、世界屈指の難コースということもあり、練習状況と安全マージンを考え、慎重にスタート位置を上げていき、何とかタイム規定をクリアし、参加資格を得ることも出来た。試合では小林が、9カーブ出口で大きく失敗。新野もスタート直後にバランスを崩し、大きく失敗。二人とも2本目には進めなかった。世界選手権で結果が残せなかったものの、初めてのアルテンベルグでタイム規定をクリアし、試合に参加出来た事は評価に値する。また、両選手が世界との差を感じ、「今自分に足りないものは何か？」をそれぞれ自覚することができた。

【3.今年度成績】

①ジュニアワールドカップ ウィンターベルグ

＝ユース A クラス＝

男子	小林誠也	21 / 38 位	参加国	16ヶ国		
			1本目	45.687(22位)	2本目	45.540(20位)
女子	新野彩季	26 / 32 位	参加国	16ヶ国		
			1本目	47.283 (28位)	2本目	45.937(19位)

②世界ジュニア選手権 アルテンベルグ

男子 小林誠也 33 / 39 位 参加国 21 ヶ国

54.957(34 位)

女子 新野彩季 43 / 48 位 参加国 20 ヶ国

47.109(43 位)

-3. スケルトン

【1. WC 前期】

平成 29 年 11 月 1 日～11 月 27 日(25 泊 27 日)

平成 29 年 12 月 3 日～12 月 17 日(13 泊 15 日)

<男子>

第 1 戦 レイクプラシッド 21 位 (高橋弘篤)

第 2 戦 パークシティー 22 位 (高橋弘篤)

第 3 戦 ウィスラー 22 位 (高橋弘篤)

第 4 戦 ウィンターベルグ 19 位 (高橋弘篤)

第 5 戦 イグルス 17 位(高橋弘篤)

<女子>

第 1 戦 レイクプラシッド 18 位 (小室希)、20 位(小口貴子)

第 2 戦 パークシティー 19 位 (小室希)、24 位(小口貴子)

第 3 戦 ウィスラー 21 位 (小口貴子)、24 位(小室希)

第 4 戦 ウィンターベルグ 17 位 (小口貴子)、18 位(小室希)

第 5 戦 イグルス 23 位(小室希)、26 位(小口貴子)

【2. WC 後期】

平成 29 年 12 月 30 日～平成 30 年 1 月 21 日(21 泊 23 日)

<男子>

第 6 戦 アルテンベルグ 9 位 (高橋弘篤)、24 位(宮嶋克幸)

第 7 戦 サンモリッツ 23 位 (高橋弘篤)、26 位(宮嶋克幸)

第 8 戦 ケニクゼー 22 位 (高橋弘篤)

<女子>

第 6 戦 アルテンベルグ 16 位 (小口貴子)、24 位(小室希)

第 7 戦 サンモリッツ 22 位 (小室希)、24 位(小口貴子)

第 8 戦 ケニクゼー 18 位 (小室希)、20 位(小口貴子)

【3. ICC 前期】

平成 29 年 10 月 4 日～11 月 15 日(41 泊 43 日)

<男子>

第 1 戦 ウィスラー	14 位 (笹原友希)
第 2 戦 ウィスラー	17 位 (笹原友希)
第 3 戦 カルガリー	19 位 (笹原友希)
第 4 戦 カルガリー	17 位 (笹原友希)

【4. NAC 前期】

平成 29 年 10 月 15 日～12 月 1 日(46 泊 48 日)

<男子>

第 1 戦 ウィスラー	4 位 (宮嶋克幸)、12 位(木下凜)、19 位(郷内翔)、24 位(黒岩俊喜)
第 2 戦 ウィスラー	優勝 (宮嶋克幸)、12 位(木下凜)、20 位(黒岩俊喜)、24 位(郷内翔)
第 3 戦 カルガリー	4 位 (宮嶋克幸)、9 位(黒岩俊喜)、20 位(郷内翔)、23 位(木下凜)
第 4 戦 カルガリー	4 位 (宮嶋克幸)、15 位(黒岩俊喜)、23 位(木下凜)、24 位(郷内翔)
第 5 戦 パークシティー	2 位(宮嶋克幸)、12 位(木下凜)、20 位(黒岩俊喜)、26 位(郷内翔)
第 6 戦 パークシティー	3 位(宮嶋克幸)、15 位(木下凜)、20 位(黒岩俊喜)、25 位(郷内翔)

<女子>

第 1 戦 ウィスラー	5 位 (野口明日香)、13 位(若林唯)
第 2 戦 ウィスラー	5 位 (野口明日香)、11 位(若林唯)
第 3 戦 カルガリー	3 位 (野口明日香)、12 位(若林唯)
第 4 戦 カルガリー	4 位 (野口明日香)、12 位(若林唯)
第 5 戦 パークシティー	15 位 (野口明日香)、19 位(若林唯)
第 6 戦 パークシティー	7 位 (野口明日香)、20 位(若林唯)

【5. Jr 世界選手権】

平成 30 年 1 月 13 日～1 月 28 日(14 泊 16 日)

サンモリッツ	5 位(宮嶋克幸)
--------	-----------

【6. オリンピック冬季競技大会(2018 平昌大会)】

<男子>

高橋弘篤	22 位 3 回戦合計タイム 2.34.69(規定により 4 回戦進めず)
宮嶋克幸	26 位 3 回戦合計タイム 2.35.58(規定により 4 回戦進めず)

<女子>

小口貴子	19 位 4 回戦合計タイム 3.33.96
------	------------------------

(3) 指導者養成事業

-1 事業内容

- ・公認コーチ取得希望者への案内と取り纏め、日体協への申請手続き(事務局と連携)
- ・日体協からの「受講の手引き」、講習会資料の送付(事務局と連携)
- ・専門科目講習会の日程、講師決定・依頼、会場依頼、準備品確認・依頼、資料準備、開催前の日体協への申請、開催後の報告手続き、受講状況の整理ほかの業務

-2 平成 29 年度 公認コーチ取得者について

29 年度の専門科目は、新規受講者は 5 名、継続受講者 6 名の計 11 名で実施した。

例年に倣って、継続受講者の科目を優先的に実施するように配慮し、6 名中 2 名(松原、木下両氏)が 29 年度の受講を完了した。また新規受講者では 5 名中 1 名(高間氏)が受講を完了した。下記が受講状況である。

※29 年度専門科目完了者

【北海道連盟】高間 晋

【長野県連盟】松原 達郎、木下 良弘 以上 3 名

※30 年度継続受講者

【北海道連盟】

宮本利成(実技 3 科目未実施)、

佐高 博之(基礎理論 2 科目、実技 1 科目、指導実習 1 科目、試験課題以上未実施)

鈴木 寛(基礎理論 5 科目、実技 1 科目、指導実習 2 科目以上未実施)

城田 仁(専門科目全科目未受講、試験課題以上未実施)

【大阪府連盟】

間野 史子(実技 1 科目未実施)

川島 誉子(基礎理論 1 科目、実技 1 科目、指導実習 2 科目以上未実施)

與治 希(基礎理論 1 科目、指導実習 1 科目以上未実施)

田山 真輔(基礎理論 7 科目、実技 4 科目、指導実習 3 科目、試験課題以上未実施)

以上 8 名

-3 平成 29 年度の専門科目実施に関して

- ・29 年度は、9 月、11 月、1 月の 3 回に分けて専門科目を開講した。
- ・日程を組む中で、審判講習会や全日本ボブスレー公式練習日での業務を入れながら、それぞれの講習内容を深める手立てを講じてきた。また種別に拘らずに、全ての種目を学ぶ機会を取った。受講者にとっては、多種別を学ぶ良い経験となり、理解が深まった等の感想を得ることができた。今後も専門科目らしく受講内容を考える必要があることが、改めて示唆されたと考える。

- ・29 年度講師は、日本連盟所属上級コーチ・公認コーチ並びに日本連盟専門委員長らに担当して頂き、日程調整しながら進めてきた。また指導者養成部員を増員してその指導と指導補助に当たった。9 月期に講師の都合により急遽内容を変更したが、他講師の理解、受講者の理解により研修会をスムーズに進めることができた。本年度も講師の日程調整にやや難があったが、スムーズに運営できたと考えている。
- ・専門科目に関しては、講師各位の資料に基づき実施した。現場でなければ実体験できないのもあり、現状ではこの方式が良いと考えられる。

(4) 長野スパイラルそり競技調査研究事業

【スパイラル通信(ボブ・リュージュ・スケルトン競技の国内外の情報発信)の強化】

今年度は NTC スタッフの小林さんを中心に情報の入手と発信事業を毎月 1 回、年 12 回スパイラル通信を各都道府県連や選手に発信した。

(5) 医科学サポート推進事業

-1 医科学情報委員会

【1. JADA と連携したドーピング講習会等の実施】

■ドーピング検査事業とドーピングに関する情報提供・教育啓蒙活動を各全日本大会のチームキャプテンを対象に実施した。

第 50 回全日本リュージュ選手権大会	12/23	2 検体
2015-2016 全日本ボブスレー選手権大会	12/23・25	2 検体
2015-2016 全日本スケルトン選手権大会	12/25	2 検体

検体数:6 検体、検査員数:述べ 6 名

今年度も 3 競技ともにドーピング関連の問題は生じなかった。

■オリンピック強化指定選手研修会を NTC で開催した。(選手 10 名、スタッフ 4 名)

・「人間力」なくして競技力向上なし(スポーツインテグリティの理解と実践)

～ガバナンス、コンプライアンス、賭博、薬物、行動規範、相談体制～

・夢の実現と目標設定

・チーム JBLSF の構築を目指して

・アンチ・ドーピング理念、日常生活における注意点、平昌五輪に向けた注意点

金子 恵美氏(JADA 協力講師)岡田ドーピング担当委員

・クロジグメッセージ 北野会長

【2. JISS,NTC と連携した医科学的サポートの展開】

人材開発と連携した育成合宿に、栄養スタッフの清野部員を派遣し、充実したサポートを展開した。

以上